

## 教育学部 学部基幹科目（2022年度以降第1学年次入学者適用）

| 区分   | 科目名               | 履修開始semester | 1   | 2   | 3   | 4  | 科目概要（  |
|------|-------------------|--------------|---|---|---|--|--|
|      |                   |              | 学校や病院等、教育支援、臨床心理学的援助が要請される領域の諸問題に積極的に取り組み、問題解決する実行力を身につけている | 教育学あるいは臨床心理学に関わる研究の基礎的方法論を修得するとともに、大学院進学希望にも対応できる十分な資質・能力を身につけている | 教育学や臨床心理学に関わる基礎的な知識・技能および応用力を有し、さらに、それらの領域で情報通信技術を活用できる技能を身につけている | 人間を理解する心を涵養し、社会的な常識を有し、社会の幅広い年齢層の人たちと協働できる人間関係能力を身につけている |  |
| 学部基幹 | 教育原論              | 1            |   |   | ○   | ○  | <p>教育という営みは歴史や社会の変遷のなかで生成され、今も未来に向かって変化し続けています。バックミラーを見なくては自動車を安全に運転できないのと同じように、未来に向かって教育を考えるには過去を振り返ることが有益です。この授業では、歴史のなかで現れてきた教育に関するさまざまな思想とおして現代の教育を構成している基本的な概念について学びます。</p> <p>しかし、過去の思想を個別に知識として学ぶのでは、それを現実の行動に活かすすべについて考えるのは難しいでしょう。そこでこの授業では、私たちが教育について陥りがちな思考のワナを10に絞り、そこから教育の歴史のなかでどのような考察がなされたのかを学び、現代教育の基本的な概念につながっていることについて考えます。</p> <p>広く深く学ぶため、テキストブックを指定し授業時間外の学修を確保し、授業では事前の学修を前提に講義を行うほか、映像の視聴やグループディスカッションを取り入れます。到達目標1に関しては、基礎的な事項を確実に修得するという観点から第7回と第14回の授業で振り返りのテストを実施・解説します。到達目標2、3に関しては、第15回の授業で行う振り返りのディスカッションをもとにレポートを作成してもらいます。</p> |
|      | 教育相談の理論及び方法       | 3            | ○   | ○   |   | ○  | <p>学校で行われる教育相談の意義を理解し、具体的な進め方が習得できるよう、幼児、児童及び生徒の発達を理解した上で、支援をするために必要な基礎的知識の習得を目指す。具体的には、①全幼児、児童及び生徒を対象とした日常的な学校教育場面での教育相談のあり方について理解を深め、実施できること、②課題を抱えた幼児、児童及び生徒を理解し支援する姿勢を養うこと、③保護者や学校以外の専門機関との連携の必要性を理解し連携できることの3つの力を習得するを中心に授業を行う。そのために、グループでの発表や討議を通して考察を深めたり、カウンセリングの技法やアセスメントを学んだりといった体験を取り入れ、実践力を養う。</p>   |
|      | 特別な教育的ニーズの理解とその支援 | 3            | ○   | ○   |   | ○  | <p>通常の学級にも在籍している様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上・生活上の困難さを理解し、個別の教育的ニーズに対応していくために必要な知識や指導方法を学ぶ。</p>  |

## 臨床心理学科 専門科目（2022年度以降第1学年次入学者適用）

| 区分         | 科目名        | 履修開始semester | 1   | 2  | 3                         | 4  | 5  | 科目概要   |
|------------|------------|--------------|---|--|---------------------------|--|--|--|
|            |            |              | 人間の成長可能性を信じ、豊かな人間性、確固たる倫理観、心の一般原理としての基礎心理学の知識、個々の人間に寄り添う臨床心理学の知識・技能を身につけている | 基礎心理学・臨床心理学の知識・技能に基づき、教育・医療・福祉・司法矯正・行政・企業など、それぞれの分野での心に関わる諸問題の解決・支援に貢献できる力を有している | 社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている | 基礎心理学・臨床心理学の知識・技能に基づき、謙虚に自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や他者を理解する力、根拠に基づいた情報を発信する力を有している | 基礎心理学・臨床心理学の知識・技能を修得し、自ら問題を発見し、他者と協働してその解決に積極的に取り組み、解決策を提示できる力を有している |  |
| 学科基礎       | 入門ゼミ       | 1            |   |  | ◎                         | ○  | ○  | 臨床心理学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。                      |
|            | 心理学史       | 1            |   | ○  | ◎                         |  |  | 古代ギリシャ時代から現代の心理学に至るまで、「心理学」という学問の歴史を様々なアプローチから考察し、学問としての心理学の概要を把握する。   |
|            | 基礎心理学      | 1            |   | ○  | ◎                         |  |  | 心理学史の流れを基盤に、心理学における様々な分野の過去研究と最新の研究の知見を紹介し、より心理学に対する理解を深める。日常的な出来事に対しての心理学の視点からの考察を行う。   |
|            | 心理学概論      | 1            |   | ○  | ◎                         |  |  | 現代の心理学において対象とされている問題、領域を紹介する。日常生活の中での出来事や個人の内的な体験について、心理学的な理解を試み、専門的な心理的援助につながる基礎的な心理学の領域の広がりと考え方を学ぶ。                                  |
|            | 臨床心理学史     | 1            | ◎   | ○  |                           |  |  | 臨床心理学についてその歴史をさかのぼり、欧米の臨床心理学を振り返りつつ、日本の臨床心理学の歴史についても学ぶことにする。東洋思想から生まれた心理療法を欧米のそれと文化比較しながら学ぶ。   |
|            | 臨床心理学概論    | 1            | ○   | ◎  |                           |  |  | 臨床心理学の成り立ち、行動療法の理論、ロジャースのクライエント中心療法について概説する。基本的な観点として「自分」「影」「言葉」「イメージ」「病」といった日常用語を用いて考え、心理療法の理論や心理職の仕事についても解説する。                       |
|            | 心理学研究法     | 1            | ○   | ○  |                           |  | ◎  | 心理学研究法の概観についてふれる。特に、臨床実践において重要な行動観察法について実習をまじえ、習得する。初めて心理学を学ぶ学生が心理学の研究法に馴れるように、その基礎的な研究法を習得させる。  |
|            | 心理学統計法1    | 1            |   | ○  | ◎                         | ○  |  | 心理学研究におけるデータの数量化とその処理法について学ぶ。心理学における統計処理の入門を学ぶため、記述統計・推測統計の基礎を中心に、データの数量化および分析方法について講述し、実際に統計処理をすることを学ぶ。                               |
|            | 心理学統計法2    | 2            |   | ○  | ◎                         | ○  |  | 「心理学統計法1H」で習得した記述統計を応用しての推測統計について、心理学における研究例を用いながら学ぶ。多変量解析を除いた推測統計法について、その原理と手法を習得することを目的とする。  |
|            | 臨床心理学基礎ゼミ1 | 3            |   |  |                           |  | ◎  | ○  |
| 臨床心理学基礎ゼミ2 | 4          |              |   |  |                           | ◎  | ○  | 臨床心理学の基本的な問題を扱った和文・英文のテキストを読み、要点をまとめて発表する。発表をもとにディスカッションを行い、臨床心理学の基本的な概念や理論、専門用語について理解を深める。  |
| 学科専攻       | 公認心理師の職責   | 5            |   | ◎  | ○                         |  |  | 集中形式の授業によって、公認心理師の役割とはどのようなものか、どのような法的知識が必須であり、どのような職責があるのかを具体的に学ぶ。<br>さらに、主要5分野における公認心理師の具体的な業務、支援者としての自己課題発見・解決能力、生涯学習への準備についても学ぶ。   |
|            | 心理学実験1     | 3            | ◎   |  |                           | ○  |  | 実験という形でのこころの探索について、実際にヒトを対象とした基礎心理学の実験を行い、実験者・被験者の両方を体験しながら、その意義と方法論について学ぶ。  |
|            | 心理学実験2     | 5            | ◎   |  |                           |  |  | 基礎心理学の中核をなす「認知心理学」に関するトピックとして、記憶や心的回転などに関する実験を自ら実施し、データを取得・分析・考察し、適切な形での報告書（レポート）を作成する。授業時間外での取組も重要になる。評価は、実習への参加状況・態度およびレポートの内容により行う。 |
|            | 知覚・認知心理学   | 3            | ◎   | ○  |                           |  |  | 人間が世界をどのように捉え、意味づけで生きているのかについて、様々な実験や実証的な理論を通して、人間特有の情報処理と理解のしかたの独自性を学ぶ。   |
|            | 学習・言語心理学   | 3            | ◎   | ○  |                           |  |  | 「学習」はヒトを含めた動物の行動の基本である。一方、「言語」はヒトの大きな特徴であるといわれている。これら学習と言語の概説を通じて、ヒトという種の特徴を理解する。  |
|            | 感情・人格心理学   | 3            | ◎   | ○  |                           |  |  | 個体差・パーソナリティとは一体何であるのか、感情や情動はどのように測定・記述ができるのか、個体の行動の予測や制御はいかにして可能かについての科学的理論を学ぶ。  |

| 区分    | 科目名               | 履修開始メスター | 1   | 2  | 3                         | 4  | 5   | 科目概要  |
|-------|-------------------|----------|---|--|---------------------------|--|---|---|
|       |                   |          | 人間の成長可能性を信じ、豊かな人間性、確固たる倫理観、心の一般原理としての基礎心理学の知識、個々の人間に寄り添う臨床心理学の知識・技能を身につけている | 基礎心理学・臨床心理学の知識・技能に基づき、教育・医療・福祉・司法矯正・行政・企業など、それぞれの分野での心に関わる諸問題の解決・支援に貢献できる力を有している | 社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている | 基礎心理学・臨床心理学の知識・技能に基づき、謙虚に自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や他者を理解する力、根拠に基づいた情報を発信する力を有している | 基礎心理学・臨床心理学の知識・技能を修得し、自ら問題を発見し、他者と協働してその解決に積極的に取り組む、解決策を提示できる力を有している  |   |
| 学科専攻  | 神経・生理心理学          | 3        | ◎   | ○  |                           |  |   | 心理現象の生理学的基盤を明らかにするため、神経系の構造(解剖)を概説したうえで、意識、感情、記憶、学習、言語などの心理現象に対応する生理・生化学的事象について学ぶ。  |
|       | 社会・集団・家族心理学       | 3        | ◎   | ○  |                           |  |   | 現代社会における様々な事象や問題とそれらに関わる子ども・若者の心理について、社会心理学観点から概説を行う。   |
|       | 発達心理学             | 3        | ◎   | ○  |                           |  |   | 乳幼児期から老年期までの心理発達と家族関係に関して、またそれぞれの時期の発達病理に関して学ぶ。   |
|       | 障害者・障害児心理学        | 5        |   | ◎  | ○                         |  |   | 障害を分類(身体、発達、精神)し、それぞれに関して、身体的な視点と心理的な視点と社会的視点から講義を進めていく。  |
|       | 心理的アセスメント         | 3        | ○   | ○  |                           |  | ◎   | 質問紙法を中心に心理的アセスメントについて学び、人間理解に関する心理学の方法論、測定手段、結果の様々な活用のしかたについて修得する。  |
|       | 心理学的支援法(力動的アプローチ) | 3        | ○   | ○  |                           |  | ◎   | 力動的心理学の構造や機能、また心理療法というサービスの中で、治療者がどのように振舞うべきか、ということ学ぶ。  |
|       | 心理学的支援法(行動的アプローチ) | 5        |   |  |                           |  | ◎   | 公認心理師という国家資格が成立した後は、効果があり有効性のある臨床技法があることを知り、その内容について学び、日常生活から臨床における活用まで学ぶことはとても大切なことである。この授業では、行動療法から認知行動療法についての各技法とその内容について取り扱う。                           |
|       | 健康・医療心理学          | 3        | ○   | ◎  |                           |  |   | 保健医療分野における健康及び予防、治療、リハビリテーション(Caplanモデル)に関して知識、技能、役割を学ぶ。  |
|       | 福祉心理学             | 5        |   | ◎  | ○                         |  |   | ADHD、自閉症スペクトラム、LD、そしてその周辺領域の発達障害を中心に、その基礎的知識について様々な領域の知見を交えて触れる。また、家庭や学校における具体的支援についても触れたい。   |
|       | 教育・学校心理学          | 5        |   | ◎  | ○                         |  |   | スクールカウンセリングでは、専門機関での臨床とは異なる視点と働きかけが必要になってくる。本授業では、教育現場の現状と課題を踏まえた上で、スクールカウンセリングの理論と実際について具体的な事例をもとに検討し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について学んでいく。 |
|       | 司法・犯罪心理学          | 5        |   | ◎  | ○                         |  |   | 犯罪の動向、犯罪者処遇の実態を踏まえた上で、犯罪原因に関する諸理論、犯罪被害および家事事件についての基本知識を身につける。また、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理支援について学ぶ。   |
|       | 産業・組織心理学          | 3        | ○   | ◎  |                           |  |   | 心理学における応用的研究領域としての産業・組織心理学の特徴および重要となるテーマについて、代表的な理論も含めて学ぶ。  |
|       | 人体の構造と機能及び疾病      | 3        |   | ◎  | ○                         |  |   | 身体的な正常の機能と病気を理解した上で、どのように、心と体が関係しているか、また身体的疾患がどのように二次的な心理的な困難をもたらすのかを理解する。  |
|       | 精神疾患とその治療         | 5        | ○   | ◎  |                           |  | ○   | 精神医学入門として、精神病院の実態や精神疾患患者の実態を、映像(イメージ)を通して学んでいく。患者の個人情報保護、守秘義務厳守のため、実際の患者の実態を伝える映像は少ない。主として、映画化されたイメージ映像を通して、精神医学、精神医療を学んでいく。                                |
|       | 関係行政論             | 3        | ○   | ◎  |                           |  |   | 心理援助職として社会において活動する際に必要な法律・制度の基本と、保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野という5分野における法律・制度について学ぶ。   |
|       | 心理演習1             | 3        | ○   | ○  |                           |  | ◎   | 援助技術、チームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理・法的義務の理解等について学んだ上で、心理査定法に関して実践的に学ぶ。   |
| 心理演習2 | 5                 |          | ○   |  | ○                         | ◎  | 援助技術、チームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理・法的義務の理解等について講義を行なった上で、知能検査・発達検査を中心とした心理検査に関して実践的に学ぶ。心理職としての知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働等の分野の施設で活用できる「知能検査・発達検査」について演習を行なう。 |   |
| 心理演習3 | 5                 |          | ○   |  |                           | ◎  | ロールプレイによるカウンセリングの実習体験、全員でのディスカッション、基本的事項についての講義を通じて、カウンセリングの基本的姿勢について体験的に学びを深めていく。様々な現場でカウンセリングを実践する上での、重要な考え方、クライアントに寄り添うための基本的な姿勢を身につける。                                |   |
| 心理演習4 | 5                 |          | ○   |  |                           | ◎  | プレイセラピーに関する基礎的な事項について体験的に学ぶ。心理職としての知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働等の分野の施設で活用している「プレイセラピー」について演習を行う。  |   |

| 区分      | 科目名           | 履修開始メスター | 1   | 2  | 3                         | 4  | 5  | 科目概要   |
|---------|---------------|----------|---|--|---------------------------|--|--|--|
|         |               |          | 人間の成長可能性を信じ、豊かな人間性、確固たる倫理観、心の一般原理としての基礎心理学の知識、個々の人間に寄り添う臨床心理学の知識・技能を身につけている | 基礎心理学・臨床心理学の知識・技能に基づき、教育・医療・福祉・司法矯正・行政・企業など、それぞれの分野での心に関わる諸問題の解決・支援に貢献できる力を有している | 社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている | 基礎心理学・臨床心理学の知識・技能に基づき、謙虚に自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や他者を理解する力、根拠に基づいた情報を発信する力を有している | 基礎心理学・臨床心理学の知識・技能を修得し、自ら問題を発見し、他者と協働してその解決に積極的に取り組み、解決策を提示できる力を有している |  |
| 学科専攻    | 心理実習1         | 6        |   | ◎  | ○                         |  | ○  | 心理実習は、公認心理師としての役割や基礎姿勢を養うための学外実習である。実習機関は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野に関する施設であり、各実習施設における実習と学内での指導を含め、総計40時間以上とする。施設の見学を主とする「見学実習」と、現場を体験する「体験実習」を通して、心理職としての役割の基本的な水準を修得する。   |
|         | 心理実習2         | 7        |   | ◎  | ○                         |  | ○  | 心理実習は、公認心理師としての役割や基礎姿勢を養うための学外実習である。実習機関は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野に関する施設であり、各実習施設における実習と学内での指導を含め、総計40時間以上とする。施設の見学を主とする「見学実習」と、現場を体験する「体験実習」を通して、心理職としての役割の基本的な水準を修得する。   |
|         | 少年法           | 3        |   | ○  | ◎                         |  |  | 少年の健全育成を基本理念とし、社会福祉や教育の領域とも密接な関連を持つ少年法について学び、非行少年処遇の実態に関する理解を深める。  |
|         | 家族関係論         | 3        |   |  |                           | ◎  | ○  | 現代社会において「家族」は多様化している。時代による家族の変化を社会的な観点と臨床心理学的な観点で読み解き、現代家族の特徴を学ぶ。  |
|         | 地域支援論         | 5        |   | ○  | ◎                         |  |  | 現代日本の地域社会で生じている問題、特に子育て支援、学校コミュニティ、被害者支援、家族の問題におけるテーマを中心に取り上げて、問題を社会・文化との関わりから構造的に捉えて論じる。また、問題に関わる個人への組織的な援助資源の紹介と援助の有効性について論じる。   |
|         | カウンセリング論      | 5        | ○   |  |                           |  | ◎  | カウンセリングの方法や理論・効果などについて概説を行う。カウンセリングの基本であるクライアント・カウンセラーの関係性を重視して、そこで起こる心の動きや成長の過程を考える。さらに授業では、カウンセリング場面の実際の記録等を通して、カウンセリング関係を支えるコミュニケーション・スキルや関わり技法の理論や実践を体験的に学ぶ。併せて、カウンセリングが必要となる心理的な状況や症状、また、カウンセラーに求められる役割や領域について理解を深める。                               |
|         | 思春期の心         | 3        |   |  |                           | ◎  | ○  | 自らの思春期をふりかえることで、感覚的・体験的に思春期の心理的特徴について学び、理解を深める。思春期に生じやすい問題や課題についても学ぶ。  |
|         | 非行臨床心理学       | 3        | ○   | ◎  |                           |  |  | 心理学の視点から非行発生と予防についての理論を学び、若者を指導し教育できる良き社会人、教育者としての知識を身に付ける。  |
|         | 子どもの心理臨床      | 3        | ○   | ◎  |                           |  |  | 「遊び」の持つ臨床的意義について考え、プレイセラピーを実践する上で求められる基本的知識及び必要とされる資質について学んでいく。  |
|         | 心理療法論（箱庭療法論）  | 5        |   | ○  |                           |  | ◎  | 箱庭療法について、発展の歴史、治療理論、研究、および実践における治療者の役割について考察する。箱庭療法の、歴史、理論、研究、実践についてその基礎を学ぶとともに、箱庭療法という技法を通して、心理臨床における臨床心理士の役割について考えることを目的とする。   |
|         | 心理療法論（応用行動分析） | 5        |   | ○  |                           |  | ◎  | 現在、行動アプローチに基づくアプローチは精神療法の中核ともなりつつあり、対象者が抱えるさまざまな心理的困難や行動障害、発達障害の治療の第一選択となる応用行動分析、行動療法、そして認知行動療法までの流れについてその基本を学ぶ。   |
|         | 臨床心理学特殊講義     | 5        | ○   |  |                           | ◎  | ○  | 臨床心理学の特定領域について専門的なテーマを取り上げて講義を行う。授業内で文献発表やグループディスカッションを取り入れる場合もある。<br>現代社会で人間が直面している問題について考え、その歴史や現状を学び、授業のテーマの背後に存在するさまざまな人間観と心に対するアプローチの多様性について理解を深める。<br>※この授業は春学期（H）と秋学期（A）があり、それぞれ隔年開講の異なる講義内容があります。4種類のテーマから履修できるものは1つだけであるため、各自の興味関心にあわせて選んでください。 |
|         | 質問紙法実習        | 5        | ◎   |  |                           |  |  | 心理学における調査研究の実践方法を学ぶ。心理学の研究法の中でも調査研究に焦点を絞り、研究を企画・実施しその結果を統計的手法を用いて分析・考察する一連の過程を実際に体験することで、この研究法について習熟することを目指す。  |
|         | 統計リメディアル      | 7        | ◎   |  |                           |  |  | 卒業研究の調査分析の過程で使用する心理統計法について学ぶ。統計法の基礎の復習に加え、調査におけるデータの分析方法に関する統計的なアプローチや統計ソフトを使用する方法を学ぶ。   |
| 心理学外書講読 | 3             | ◎        |   |  |                           | ○  | 臨床心理学に関する英語文献の講読力を高めるため、適切な英語文献の内容を選定し、受講生自身の講読力を高める。                |  |

| 区分   | 科目名      | 履修開始メスター | 1   | 2  | 3                         | 4  | 5  | 科目概要  |
|------|----------|----------|---|--|---------------------------|--|--|---|
|      |          |          | 人間の成長可能性を信じ、豊かな人間性、確固たる倫理観、心の一般原理としての基礎心理学の知識、個々の人間に寄り添う臨床心理学の知識・技能を身につけている | 基礎心理学・臨床心理学の知識・技能に基づき、教育・医療・福祉・司法矯正・行政・企業など、それぞれの分野での心に関わる諸問題の解決・支援に貢献できる力を有している | 社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている | 基礎心理学・臨床心理学の知識・技能に基づき、謙虚に自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や他者を理解する力、根拠に基づいた情報を発信する力を有している | 基礎心理学・臨床心理学の知識・技能を修得し、自ら問題を発見し、他者と協働してその解決に積極的に取り組み、解決策を提示できる力を有している |   |
| 学科専攻 | 臨床心理学ゼミ1 | 5        | ○   |  |                           | ◎  |  | 臨床心理学に関する研究論文や専門書を通して、臨床心理学の諸領域における研究の動向を調べる。卒業研究につながるテーマ、またそのテーマに関する研究方法を調べる。卒業論文に繋がるテーマを探索し、関心領域についての知識を深める。  |
|      | 臨床心理学ゼミ2 | 6        | ○   |  |                           | ◎  |  | 臨床心理学に関する研究論文や専門書を通して、臨床心理学の諸領域における研究の動向を調べる。卒業研究につながるテーマ、またそのテーマに関する研究方法を調べる。学術論文を読み、臨床心理学の専門的知識を深化・発展させる。   |
|      | 卒業研究ゼミ1  | 7        | ○   |  |                           | ◎  |  | 卒業論文作成の指導、特にテーマ設定と研究計画を中心に指導を行う。卒業論文を執筆する学生に対し、各自でテーマを選定し、調査、実験、観察、面接、文献研究などの具体案を練り、実施するまでの過程を指導する。自分自身のテーマをみつけ、研究として具体化するための方策を考えていく。  |
|      | 卒業研究ゼミ2  | 8        | ○   |  |                           | ◎  |  | 卒業論文のための研究計画発表、並びに分析方法の検討、分析結果の検討について、グループでディスカッションをおこなう。研究計画について検討、分析方法の妥当性や得られた結果の意義について検討する。   |
|      | 卒業論文     | 8        | ○   |  |                           | ◎  |  | 卒業研究ゼミを通して取り組んだテーマについての卒業論文を執筆、提出する。口頭試問において複数の教員による提出論文の審査を行い、卒業論文としての一定の基準に達しているかどうかの評価をする。   |
| 関連   | 日本史概論    | 1        |   |  | ○                         |  |  | 大学で学ぶ歴史学はこれまでの歴史の学習とは大きく異なるだけでなく、現在持っている歴史の知識も、これから始まる専門的な学修を考えた時に、決して十分とはいえない。この講義では、歴史学の基本的な考え方・方法に基づき、担当教員が日本史の各時代を理解するうえで重要と考えた事象を取り上げ講義する。講義の内容を理解するなかで、今後の専門的な学修に際して基礎となる日本史の知識を習得するとともに、学問としての歴史学の基本的な考え方や方法を理解する。                 |
|      | 東洋史概論    | 1        |   |  | ○                         |  |  | 本講義では、東洋の歴史、とりわけ中国の歴史について、古代から近代まで大まかな流れに沿って学修する。中国は、古代から近代にいたるまで、日本の歴史と深いかわりを持ってきたが、その歴史や、培われてきた社会・文化は、日本とまったく異なる。中国における王朝ごとの基礎的な歴史用語の解説を進めながら、その王朝の歴史や文化の特徴を学ぶ。また王朝の移り変わりを理解し、中国史の概略を学び、歴史の多様性を学修する。                                    |
|      | 西洋史概論    | 1        |   |  | ○                         |  |  | グローバルな関係性が張り巡らされた現代社会のなかで、西洋文明の理解は日本人にとって不可欠である。本講義では、その中核をなすヨーロッパ文明について、その形成期に重点をおきながら通時的に歴史を概観する。そうすることで、そこに生きた人びとの文化やものの考え方の特徴を学ぶ。加えて、講義中に紹介される史料の解説を通して、各時代と社会の具体的なイメージをつかみ、他者たるヨーロッパに対する理解を深める。                                      |
|      | 日本史特論    | 2        |   |  | ○                         |  |  | 日本史概論の学修を通じて日本史各時代の最低限の知識を身につけ、歴史学（日本史学）の基本的な考え方・方法の一端に触れた。本科目では、もう少し専門的な内容に踏み込み講義する。時代によって取り上げる問題や内容は異なるが、日本史の各時代を理解するうえで基礎となる重要事項であることに変わりはない。講義の内容を理解し知識を広めることに加え、専門課程での学修を見据え、複数の事項を関連づけたり、背景を考えたりするなどして、歴史学の考え方や方法の基本となる思考に触れてみて欲しい。 |
|      | 法律学概論1   | 1        |   | ○  | ○                         |  |  | 人が集まり、社会と言う集団が作られるとき、そこにはルールが発生し、それが「法」と呼ばれるようになる。この授業では、私たちの生活に対するルールとして機能する基本的な「法」を紹介する。その上で、現行法制度の紹介にとどまらず、その限界事例での法的な考え方について解説したい。  |
|      | 法律学概論2   | 2        |   | ○  | ○                         |  |  | 人が集まり、社会と言う集団が作られるとき、そこにはルールが発生し、「法」と呼ばれるようになる。そうした「法」により規律される空間においても限界事例が生じる。このような限界事例において、憲法上の権利がどのように機能するのか、という点について取り扱う。もっとも、授業時間の制約上、すべてを網羅的に取り扱うことはできないが、できるだけ身近な問題を取り上げながら授業を進める予定である。   |

| 区分   | 科目名    | 履修開始メスター | 1   | 2  | 3                         | 4  | 5  | 科目概要   |
|------|--------|----------|---|--|---------------------------|--|--|--|
|      |        |          | 人間の成長可能性を信じ、豊かな人間性、確固たる倫理観、心の一般原理としての基礎心理学の知識、個々の人間に寄り添う臨床心理学の知識・技能を身につけている | 基礎心理学・臨床心理学の知識・技能に基づき、教育・医療・福祉・司法矯正・行政・企業など、それぞれの分野での心に関わる諸問題の解決・支援に貢献できる力を有している | 社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている | 基礎心理学・臨床心理学の知識・技能に基づき、謙虚に自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や他者を理解する力、根拠に基づいた情報を発信する力を有している | 基礎心理学・臨床心理学の知識・技能を修得し、自ら問題を発見し、他者と協働してその解決に積極的に取り組み、解決策を提示できる力を有している   |  |
| 関連   | 倫理学概論  | 1        |   |  | ○                         |  |  | 西洋では多様な倫理思想が生まれたが、ここでは19世紀、デンマークの哲学者、キェルケゴールの思想を分析する。キリスト教神学や近代哲学がどのように彼の思想に関連するかを考察しながら、現代におけるその有効性を問うてみたい。①倫理学とはなにか②キェルケゴールの生涯と著作③道徳哲学者としてのキェルケゴール④近代哲学のなかでの位置づけ。              |
|      | 哲学概論   | 2        |   |  | ○                         |  |  | 哲学は一見、抽象的な議論のつらなりであるが、議論は日常の経験に根ざしている。哲学の主要な議論を生活空間のなかから理解していくことがこの講義の目的である。20世紀の現象学や解釈学の立場を軸としながら進みたい。①哲学と日常性②物との関わり③人間と空間④歴史と風土  |
|      | 宗教学概論  | 1        |   |  | ○                         |  |  | 宗教の本質については様々な見解が見られるが、これらを紹介しながら分析する。近代哲学はカントによる魂の実体性の否定によって、一つの頂点を迎える。この、キリスト教神学による魂不滅の信仰への痛打が、どう受け止められたかを中心に考察を進めていきたい。①宗教の定義②物との関わり③人間と空間④歴史と風土。                              |
|      | 国際政治学  | 1        |   | ○  | ○                         |  |  | 国際社会における国家の政策や安全保障などの国際政治の歴史を踏まえ、国際政治学の概念や理論を学ぶ。また、これらを踏まえた現代の国際問題を考察する。   |
|      | 社会学概論  | 1        |   | ○  | ○                         |  |  | 多様な形で現象する現代社会の出来事を疑い、捉え直し、社会学とは何か、何が出来るかを考える。<br>講義では、社会学における歴史的展開を概観し、いくつかの社会学の領域をとりあげて、具体的な現象を検討しながら人間関係や世の中でのしくみを読み解いていく。   |
|      | 経済学概論  | 1        |   | ○  | ○                         |  |  | 経済学の基礎理論、歴史をふまえて、日本経済の現状と経済政策を理解する。<br>授業では、戦後復興から高度経済成長、バブル経済の発生と崩壊に至る日本の経済システムの特徴や、人口減少や高齢化が進む日本の現状を把握する。また、経済のグローバル化の進展と今日的課題を考える。経済とは何か政府や企業の役割といった幅広い領域にかけて、経済全般を見る目を育てていく。 |
|      | 自然地理学1 | 3        |   |  | ○                         |  |  | 自然地理学とは、地球上の自然環境を構成する諸要素を総合的・有機的に捉える地理学の一分野である。この講義では、日本や世界各地の地形、気候、水文、植生、土壌等に関わる自然地理学の基礎知識を正しく理解し、地球上の自然環境を総合的・有機的に説明する能力の獲得を目指す。   |
|      | 自然地理学2 | 4        |   |  | ○                         |  |  | 自然地理学とは、地球上の自然環境を構成する諸要素を総合的・有機的に捉える地理学の一分野であるが、環境の要素には人間もまた含まれる。この講義では、防災や持続可能社会などといった環境との関わりで人間が直面する問題を通じて、日本や世界各地の自然環境と人間との相互作用の関係を理解し、説明する能力の獲得を目指す。                         |
|      | 地誌学1   | 3        |   |  | ○                         |  |  | 地誌学とは、自然現象（地形・気候・水文など）と人文現象（都市・経済・歴史・交通など）の相互関係を総合的に考察し、地域的性質をとらえる地理学の一分野である。この講義では、様々な地理学の議論を導き、日本や世界各地の自然と文化の相互作用について学ぶことで、グローバル化する現代世界でそれぞれの地域を単純化することなく理解する能力を身につける。         |
| 地誌学2 | 4      |          |   | ○  |                           |  | 地誌学とは、自然現象（地形・気候・水文など）と人文現象（都市・経済・歴史・交通など）の相互関係を総合的に考察し、地域的性質をとらえる地理学の一分野である。この講義ではある地域の特徴を自然環境、歴史、文化、政治、経済など様々な観点から総合的に理解した上で、現在の世界的な課題や国際情勢の中に適切に位置付ける視点の獲得を目指す。 |  |